

自	分	色	
は	っ	け	ん

vol. 4

区内で活躍する男女共同参画人



大田区スポーツ推進委員
上級障がい者スポーツ指導員
日本ボッチャ協会B級審判員

あら き ひろ こ
荒木 弘子さん

profile

2011年、大田区体育指導委員(現・スポーツ推進委員)。(公財)日本障がい者スポーツ協会認定「初級障がい者スポーツ指導員」の資格を取得。
2014年、「大田区しょうがいの日のつどい」で初めてボッチャ体験会を開催。
2018年、日本ボッチャ協会C級審判員取得、上級障がい者スポーツ指導員取得。
2019年、日本ボッチャ協会B級審判員取得。
現在、大田区以外でもボッチャの指導や審判に当たるとともに、地域への普及活動も展開している。

ボッチャの楽しさ、広めたい

障がい者スポーツに携わるようになったきっかけは？

19年前、娘が入っていたバドミントンサークルの代表と大田区スポーツ少年団の理事をしていた時に、先輩体育指導委員の勧めで区の体育指導委員になりました。その後、体育指導委員は「スポーツ推進委員」と名称が変わり、その活動の中にスポーツコーディネーターとしての役割や障がい者スポーツの指導が盛り込まれることになりました。

そして、長女が大学の社会福祉学部で学んでいたことがきっかけで、「障がい者スポーツ指導員」という認定資格があることを知り、その初級資格を取ったのです。

「初級」は、障がいのある人と一緒に参加してスポーツを楽しむ、というのが趣旨。これに留めてはもったいないと、その後もボフンテアで東京都障害者総合スポーツセンターに通い、「中級」「上級」を取得するなど自らスキルアップを図り、今では障がい者スポーツのイベントや教室の企画・運営までできるようになりました。

ボッチャとの出会いは？

初級資格を取った時に障がい者スポーツセンターでボッチャの講習が行われると聞き、参加したのがボッ



2019年に行われた「大田区しょうがいの日のつどい」で審判を務められた荒木さん

チャとの出会いです。

勉強してみると、ボッチャは道具も持ち運べる大きさで、誰もができるスポーツだとわかり、「ぜったいに普及できる」と確信しました。

2014年の「大田区しょうがいの日のつどい」で、区内で初めて「ボッチャ体験会」が開催されました。それを機に、日本ボッチャ協会の「普及員」の資格を取得し、区内小学校で出前のボッチャ教室を行うなど、本格的にボッチャ普及活動に乗り出したのです。

普及活動を進めるなかで、ボッチャの公式戦での審判は選手の親御さんや特別支援学校の先生が務めていることが多いと気づきました。

選手として戦っている自分の子どもの応援に専念できない親御さんの様子を見て、代わりに自分が審判員として試合に関わりたくて強く思い、審判員の資格を取得しました。

現在は、日本ボッチャ協会の審判員として数々の公式試合に参加しています。

今後の展開と抱負を

体を動かすと、心も動いていく——そこがスポーツの良いところだ

中でもボッチャは、障がいの有無や性別に関係なく、子どもからお年寄りまで楽しめるスポーツ。体に障がいがある人にはリハビリとなって身体機能の低下を抑止し、また、心が塞ぎがちな方も、外出の機会が増えることで気持ちが前向きになると思います。自身の活動としては、今後もボッチャの審判員としてもっと試合に参加して審判の場数を踏み、精度を高め、ボッチャの面白さをより広めていきたいと思っています。

夏には東京2020大会が開催されます。聖火ランナーの一人として、オリ・パラを精一杯盛り上げていきたいと思っています。また、審判仲間と有明体操競技場で行う試合を観戦する予定です。前回のリオ大会で競技団体戦・銀メダルに輝き、国内におけるボッチャの認知度向上に貢献した「火ノ玉JAPAN」の選手たちを応援したいと思っています。

がんばれ「火ノ玉JAPAN」!!

